



横須賀石炭火力訴訟、 いよいよ結審へ

二〇一九年五月二十七日、横須賀市民中心に原告四十五名が東京地方裁判所に提訴した横須賀石炭火力行政訴訟。その後、三名の原告が加わり、計四十八名の原告と多数のサポーターとともに約三年に渡って審理を見守ってきました。その裁判がいよいよ終盤を迎えています。

裁判は、約三カ月間に一度のペースで大法廷で行われてきました。今年に入ってから二月、三月、四月と立て続けの口頭弁論期日があり、原告からの意見陳述が行われてきました。次回六月六日の第十三回期日で結審となります。

当初は、約百名の傍聴席数を超える大勢の人が集まり、毎回抽選する状況でしたが、コロナ禍になってからは、大法廷も傍聴席を半分以下に制限されるなど、様々な制約の中で参加の呼びかけもできませんでした。報告会もオンライン形式での開催となりました。裁判の現場では、多くの人が関心を持っていることが、なかなか見える化しにくい状況であったことは残念です。

しかし、実際は、横須賀石炭火力に対して地元の反対の声は日に日に増してきています。建設現場前では毎月必ず反対のスタンディングアクションが行われ、その人数も最初よりも増えてきました。四月の映画上映会では千人を超す人が集まり、その二週間後に行った横須賀気候マーチは雨が本降りとなる中、二百人近い人で街を歩きました。

裁判長に市民の声が届きますように。

最後の裁判を傍聴しよう！

第13回期日&報告会・勉強会

日程：2022年6月6日(月) 10:30～

場所：東京地方裁判所103号法廷

<終了後報告会・勉強会> 予定時刻：11:30

場所：航空会館大ホール(701～703)

内容：

1. 第13回期日の報告 小島延夫弁護団長
2. 勉強会「石炭火力とイノベーションの問題」
講演：平田仁子(Climate Integrate)

* 後日WEBに掲載予定

※航空会館への移動は、貸し切りバスで移動予定です。
申し込みは必要ありませんが、裁判終了後、原告団・弁護団とともに動いていただくようお願いします。

裁判文書

訴状や原告・被告の裁判所への提出書面は、個人情報や著作権に関わる資料以外はすべてWEBで公開しています。

<http://yokosukaclimatecase.jp/>

目次

次の裁判予定	1
第10～12回期日報告	2
問題提起： 広報よこすか4月号より	3
第2回横須賀気候マーチ開催 4 活動報告：映画上映会	4



第十回、第十一回、第十二回期日報告： 原告尋問で4名からの訴え

3回にわたって行われた原告尋問では、原告団長の鈴木陸郎さん、プロダイバーの武本匡弘さん、漁師の小松原哲也さん、幼い頃から横須賀で育った橋本かほるさんが出廷し、弁護士からの問いかけに対して、それぞれの立場から、石炭火力の新設を止めてほしいという切実な思いが語られました。以下はその論点です。

* 今回尋問に立った原告の方からは、裁判所で行われた原告尋問の内容について、報告会でも話していただき、YOUTUBEで公開しています。ご覧いただくには、右のQRコードもしくはURLからリンクを開いてご覧ください。

報告会映像



<https://bit.ly/3ae3MU5>

第10回期日
2022年2月21日

横須賀石炭火力の正当性のなさを改めて強調

原告・鈴木陸郎さん

温暖化が進めば人間が生活できない環境になる。温暖化を止めるために温室効果ガスの削減が求められる中、石炭火力の新設は許されない。また、環境悪化を防ぐ制度である環境アセスを簡略化することは、アセス制度の破壊だ。将来世代により良い世界を残すためには、環境アセスをより良いものにしていく責任がある。

原告・武本匡弘さん

長年海の観察をしてきて、この20年で環境は激変している。サンゴの白化や磯焼けは水温上昇によるものだ。また、海水温の上昇や風向きの変化などをもたらす気候変動の影響によって、漁業者やダイバーの仕事が奪われている。だからこそ、大量のCO2を排出する火力発電所建設は止めなければならない。



第11回期日
2022年3月7日

激減する漁獲量

原告・小松原哲也さん

猿島から追浜までの安浦漁港近くで、ミル貝、タイラ貝、なまこを採取する潜水漁業をしているが、ミル貝は全盛期の120kg/日から50kg/日に減少、タイラ貝は無い、なまこもかつては1000kg/日もあったが激減した。その最大の原因は、海水温の上昇で、冷たい水を好む貝が生息できない環境に変化していることだ。収入は5分の1にまで大幅に減少してしまった。気候変動の影響は大きい。海水温をもとに戻してほしい。

第12回期日
2022年4月13日

土砂災害の恐怖

原告・橋本かほるさん

近年の雨の降り方が非常に激しく、たたきつけるような音を出し、屋根が壊れるかと思う。いろいろな地域で豪雨災害が起きているが、このまま豪雨が続けば、自分の家も危ないと思うようになった。最近、家の裏山の地盤が緩んで家の方に土砂が来るのではと思うと恐怖を感じる。日常生活では不安なことはあるが、恐怖までを感じることはない。最近の豪雨で感じる恐怖は、娘が5歳の時に事故にあって感じた恐怖と同じ恐さだ。

裁判の報告は、国際環境NGOのブログでより詳細な報告がありますので、そちらもご覧ください。
FoE Japan ブログ「横須賀石炭訴訟報告」: <https://foejapan.wordpress.com/>



【問題提起】広報よこすか4月号より 石炭火力がなくなった横須賀市の“未来ビジョン”

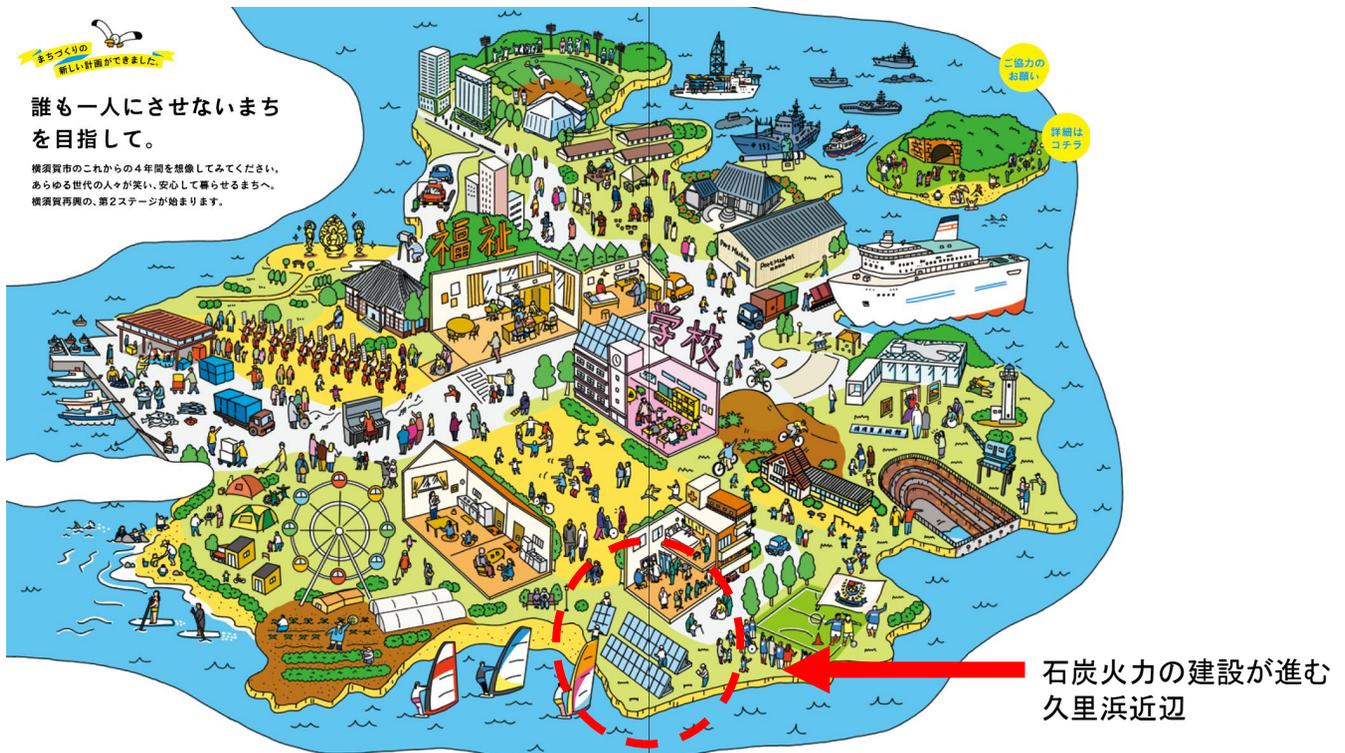
「2026年の横須賀ってどんな街になるんだろう？ その答えは 表紙をめくると、見えてきます」

かわいらしい小学生くらいの女の子の写真(右)とともにそんな投げかけが大きく書かれたのは、2022年4月の横須賀市広報の「広報よこすか4月号」の表紙です。そして、次の見開きページに大きく載せられた横須賀市全体を俯瞰する未来の姿を描いたイラストで、久里浜近辺に描かれていたのは、石炭火力ではなく、太陽光パネルでした。横須賀市が今年度からスタートさせる再興プランで、絵を取り囲むように箇条書きされた未来ビジョンの「環境」の項目には、「ソーラーパネル: 公共施設の屋根にソーラーパネルの設置を進めます」とあります。現実には石炭火力の建設がほぼ完成間近の状態まで進み、このままいけば2023年、24年に1号機、2号機と稼働がはじまります。このような広報は、石炭火力の問題に取り組む住民から見れば、とても看過できないものです。その理由はいくつかあります。



1. 久里浜周辺でこのような大規模な直置き太陽光パネルの建設など実際はやっていない。
2. 市民に石炭火力の存在を隠し、きれいごとだけ発信するグリーンウォッシュそのものである
3. 石炭火力の問題に市として向き合うつもりがないことが読み取れ、温暖化対策への姿勢が問われる。

子どもたちの未来のために、希望の持てるビジョンを描くことはとても大事です。そして、2026年、本当に石炭火力のない、このような街になったら、どんなにいいでしょうか。横須賀市が再興プランとして、このビジョンに向けて本気で取り組むなら、JERAに対して石炭火力の中止を働きかけ、再エネへの転換を求めていくべきでしょう。



出典: よこすか2022年4月号より

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/shisei/kouhou/kouhou/documents/2022-04.pdf>



発行：横須賀石炭火力発電所訴訟原告団事務局 原告団長：鈴木陸郎
 連絡先：〒239-0843 横須賀市津久井5-17-6 TEL:046-847-3253
 Email:nocoal.tokyobay@gmail.com
 WEBサイト:http://yokosukaclimatecase.jp

【活動】6/4第2回横須賀気候マーチへ行こう！

今、私たちは、深刻な気候変動問題を解決する最後の世代だと言われています。今から科学に基づく行動をすれば、気温の上昇を産業革命前から1.5℃の上昇に抑えることができ、危険な気候を回避することができます。

そのためには、CO2など温室効果ガスの排出を今すぐ大幅削減をする必要があります。CO2排出の最大の原因である化石燃料を燃やさないよう、火力発電所ではなく、太陽光や風力といった再生エネに切り替えていくとともに、省エネでエネルギーの無駄遣いをなくすことが必要です。CO2の排出は、気候変動を悪化させ、多くの人たちの生命や財産を奪う人権侵害にほかなりません。私たちは、地球に住むすべての人々が公平で気候災害をできるだけ回避する社会を望み、将来世代にも大きなツケを残さないような社会をめざして、多くの人たちと連帯していきたいと考えています。みんなが笑顔でいられる社会の実現に向け、横須賀から発信していきたいと思えます。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。

＜第2回横須賀気候マーチ＞

日時：2022年6月4日（土）13:00～

集合場所：ヴェルニー公園（京急汐入駅） 少雨決行！

再エネ社会を目指そう！
 第2回 横須賀気候マーチ
 みんなで一緒に参加しよう！
 少雨決行
 2022. 6. 4 (土)
 13:00 集会開始
 13:30 マーチ開始
 集合場所：ヴェルニー公園
 京急汐入駅から徒歩5分
 JR 横須賀駅から徒歩5分
 主催：横須賀火力発電所建設を考える会/映画「グレタひとりぼっちの挑戦」よこすか上映実行委員会
 連絡先：080-5933-7487（鈴木陸郎）

【活動報告】映画上映会大成功！

4月10日、ヨコスカ・ベイサイドポケットにて、映画「グレタひとりぼっちの挑戦」上映会を開催しました。当日は想定を上回るのべ1000人越えの参加。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。以下は、実行委員会メンバーのメッセージです。

”長いこと地道に地域のグループに石炭火力発電所建設の問題について働きかけてきて、それが今回ここまで広がった”

”まだまだ市民運動の広がりは足りないけれど、今回これだけ人が集まったからこれからまた変わっていくかもしれない”



劇場に飾った賛同団体メッセージボード

編集後記

5月下旬に開催されたG7気候・エネルギー・環境大臣会合で最終的にまとまった合意文書では、脱石炭の方向性が示され、2035年の電源の脱炭素化に向けた取り組みが促される文言が入りました。脱石炭の期限は残念ながら明示されませんでした。いまだに「脱石炭」の方向性を示せていない日本政府が今後どのような対応をとっていくのかが問われます。G7のうち5か国は2030年までの脱石炭を明言しているのですから、日本も早く歩調を合わせてほしいものです。

ウクライナ侵攻を見るにつけ、エネルギー自給率を高め、再生エネ100%を目指すことがエネルギー安全保障上最も重要であり、それが温暖化対策にもなるのにとつくづく思います。（もい）